

# 京都大学の改革と将来構想 (WINDOW 構想)

## 世界や社会に通じた窓を開け風通しをよくし、 野生的で賢い学生を育てることが 私たち京都大学の共通の夢であり、目標です。

京都大学は創立以来、自由の学風のもと対話を根幹とした自主独立と創造の精神を涵養し、多元的な課題の解決に挑戦して、地球社会の調和ある共存に貢献すべく、質の高い高等教育と先端的学術研究を推進してきました。学問を志す人々を広く国内外から受け入れ、国際社会で活躍できる能力を養うとともに、多様な研究の発展と、その成果を世界共通の資産として社会に還元する責務は、ますます重要になりつつあります。

一方、地球環境の悪化や民族間、宗教間の対立の激化、国際資源競争や金融危機、社会格差や生活の不安などの20世紀的課題は、解決されないまま21世紀に持ち越され、一層問題が大きくなっており、世界の情勢とわが国を取り巻く状況は急速に変化しています。わが国の人口動態の変化と基礎的財政収支の不均衡にともない、国立大学は、新たな運営形態や組織改革を求められるようになりました。特に、国からの運営費交付金は大学改革促進係数等によって毎年減少し、本学を取り巻く財政状況は一層厳しくなりつつあります。

そこで、第3期中期目標・中期計画を見据えた改革の加速期間であった平成26年度に、大学が直面している状況を正しく認識した上で、その改革に向けて指針を提示し、今後の実行計画を立てることにいたしました。

まず私は、こうした現況に鑑み、京都大学が歩む指針として以下に述べる「WINDOW構想」を平成27年度に打ち出しました。大学を社会や世界に開く窓として位置づけ、有能な学生や若い研究者の能力を高め、それぞれの活躍の場へと送り出す役割を大学全体の共通のミッションとして位置づけたいと思ったからです。大学の教育とは、知識の蓄積と理解の向上だけを目指すものではなく、習得した知識や技術を用いていかに新しい発想や発見を生み出せるようになるかが問われるものです。その創造の精神を教職員と学生が一体となって高めるところにこそ、イノベーションが生まれるのです。すべての学生がみな同じ目標に向かって能力を高めたとしてもイノベーションには結び付かないでしょう。違う能力が出会い、そこで切磋琢磨する場所が与えられることによって、新しい考えが生み出されていくのです。京都大学では、単に競争的な環境を作るのではなく、分野を超えて異なる能力や発想に出会い、対話を楽しみ協力関係を形作る場を提供していきたいと考えています。そういった出会いや話し合いの場を通じて野生的で賢い学生を育て、背中をそっと押して彼らが活躍できる世界に、開いた窓から送り出すことが、私たち京都大学の教職員の共通の夢であり、目標であってほしいと思います。その「窓」にちなんで、WINDOWという標語を作りました。

そしてこの度、「WINDOW構想」の改定を行いました。同構想のこれまでの実績や社会環境の変化を踏まえて、京都大学が今後より一層注力する施策を検討し、新たに盛り込んでいます。また、平成29年度に指定国立大学法人に指定され、新たに開始した多数の試みも取り入れました。

本構想では、新たな方針・施策だけでなく、継続して取り組むものについても、その理念や内容を十分に踏まえながら、さらに発展させようと考えております。今後も引き続き、皆様の積極的なご意見を頂戴したいと考えております。

京都大学総長 山極 壽一

# WINDOW構想に掲げる6つの目標

(2018年3月改定時のもの)

## WILD AND WISE

未知の世界に挑戦できる実践の場として、学生への多様な教育研究環境を提供し、野生的で賢い学生を育成します。

**W**はWild and Wise。すなわち野生的で賢い学生を育てようという目標です。現代の学生は内にこもりがちで、IT機器を常時持ち歩き、狭い仲間うちだけで絶えずつながりあう傾向にあると言われています。そのため、ひとりよがりの判断でよとしてしまう風潮が広がりつつあります。理にかなう優れた選択や行動を実施するためには、情報を正しく読み、自分ばかりでなく他者の知識や経験を総動員して自己決定する意思を強



体験型海外渡航支援制度「おもるチャレンジ」派遣の様子

く持つことが必要です。大学キャンパスの中はもちろんのこと、それ以外にもこうした対話と実践の場を多く設け、タフで賢い学生を育てようと考えています。

### 重点戦略

- 1 学生主体で自発的な創意・創造性を活かせるような教育プログラムを充実させ、学生本位の視点に立った教育の質的転換を行うため、講義・コース内容の可視化による教育の質保証を担保するとともに、学部と大学院との柔軟な接続を図ります。
- 2 次世代を担うグローバル人材の育成と育成基盤の強化により、人々を導くことのできる、したたかで強靱なリーダーを育成します。
- 3 対話を根幹とした自学自習を促進するために、学生主体の多様な学びを支える教育学習環境を整備するとともに、人間形成の一翼を担う課外活動を支援します。

## I INTERNATIONAL AND INNOVATIVE

対話を重視した教育研究環境を基盤とする研究の国際化を一層推進し、イノベーションの創出を図ります。

**I**はInternational and Innovative。国際性豊かな環境の中で、常に世界の動きに目を配り、世界の人々と自由に対話しながら、時代を画するイノベーションを生み出そうとするものです。海外の大学や研究機関、産業界等を通じた多様な交流を通じて、これらの動きを作り出そうと考えています。



第3回ASEAN-JAPANワークショップにおけるセッション2の様子  
(左：議長を務める山極総長)

### 重点戦略

- 1 国際性豊かな環境を醸成します。
- 2 国際的な研究環境・研究支援体制を整備することにより、国内外の卓越した研究者が集う国際研究拠点を設置します。
- 3 創造的な研究を推進し、世界への発信を図ります。
- 4 産官学連携および社会貢献等事業の推進ならびに質の高い医療の提供等を通じて、社会的課題の克服と人々の健康の向上を図ります。



## NATURAL AND NOBLE

自然に親しみ、広く深く学び、高い品格と高潔な態度を身に付けられるよう、全学の意識を高め、魅力あるカリキュラムや快適な学びの環境および制度を作ります。

**N**はNatural and Noble。京都大学は、三方山に囲まれた千年の都に位置し、自然の景観に恵まれ、高い水準の文化と歴史に包まれた環境にあります。昔から京都大学の研究者は、これらの豊かな環境の下で自然と触れ合い、多くの新しい発想を育んできました。これまでに9人のノーベル賞、2人のフィールズ賞をはじめとする多くの世界的な賞の受賞者を輩出し、西田哲学、霊長類学など世界に類のない新しい発想や学問を生み出し



てきたのも、京都のこうした環境によるところが大きいと言えます。また、京都の市民も京都大学の学生に古くから親しみ、時には教育的な配慮をもって接してきました。京都大学の学生の高い品格や倫理観は京都の自然と社会的環境によって醸成されてきたように思います。今後もこの伝統を受け継ぎながら、新しい時代に適合しつつそれを先導するような精神を培っていきたいと考えています。

### 重点戦略

- 1 教育研究環境の整備・充実を図ります。
- 2 自然に学び、異文化と交流できる機会を増やします。
- 3 コンプライアンスの強化を図ります。

## DIVERSE AND DYNAMIC

多様な文化や考え方を常に受け入れ、自由に学べる精神的風土を培いながら、悠久の歴史の中に自分を正しく位置づけて堂々と振る舞う心構えを涵養するとともに、その躍動を保証しつつ静かで落ち着いた学問の場を提供します。

**D**はDiverse and Dynamic。グローバル化時代の到来により、現代は多様な文化が入り混じって共存することが必要になりました。これまで強みを発揮してきた日本の均質性は、国際競争が激化する現代では時として創造力を弱め、イノベーションの育成を阻んでいると言われています。京都大学は多様な文化や考え方に対して常にオープンで、自由に学べる場でなければならないと思います。一方、急速な時代の流れに左右されることなく、自分の存在をきちんと見つめ、悠久の歴史の中に自分を正しく位置づけて堂々と振る舞うことも重要です。京都大学はその躍動を保証する静謐な学問の場を提供したいと思っています。

### 重点戦略

- 1 「京大らしさ」の継承と発展を図るために、京都を丸ごと大学のキャンパスとみなして地域・社会と共生していく「京都・大学キャンパス計画」を推進するとともに、同計画に基づき、行政・経済界・他大学等との連携強化による国際化を推進します。
- 2 グローバルで多様な学生を積極的に受け入れる基盤として、日本人学生と留学生との対話ができるスペースや交流の場を充実させます。
- 3 将来構想等の着実な実現に向けて機動的な大学運営を行うとともに、次世代の教育学習環境の改善、組織化等による研究力向上を図るために、情報環境を整備し、それを基盤として多様な活動を俯瞰できる本学独自の仕組みを構築します。

## O ORIGINAL AND OPTIMISTIC

失敗や批判を恐れず、それを糧にして異なる考えを取り入れて目標達成に導くような能力を涵養できる環境および制度を整え、分野を超えた多様な人材の協働による新たな学術領域の創成など、未踏科学領域の開拓を目指し、それを支援します。

**O**はOriginal and Optimistic。これまでの常識を塗り替えるような発想は、実は多くの人の考えや体験を吸収した上に生まれます。そのためにはまず、自分が素晴らしいと感動した人の行為や言葉をよく理解し、仲間とそれを共有し話し合いながら、思考を深めていく過程が必要です。自分の考えに行き詰まったり、仲間から批判されて悲観しそうになったりしたとき、それを明るく乗り越えられるような精神力が必要です。失敗や批判に対してくよくよせず、それを糧にして自分とは異なる考えを取り入れて成功に導くような能力を涵養しなければなりません。その機会を京都大学になるべくたくさん作るように環境を整えようと思っています。

### 重点戦略

- 1 総合研究大学としてのポテンシャルを質の高い教育に反映させ、あらゆる学生や教員が安心して学習や教育研究に専念できる環境を作ります。
- 2 総合大学に相応しいアドミッションのあり方を再考し、高校生の主体的な進路選択の支援および高校教育から大学教育へのスムーズな接続を図るため、高大接続および連携に関する事業を推進します。
- 3 京都大学を特徴づける創造的学術領域における研究を推進します。
- 4 外的な制約にとらわれない自由な発想を担保するために「基金戦略」を推進し、社会や大学支援者と大学とのつながりを強化します。

## W WOMEN AND THE WORLD

男女共同参画推進アクション・プランに基づき環境・支援体制整備に加え、休業から復帰後の子育て期に柔軟な働き方を選べる制度を構築します。また、学生が希望をもってキャリアパスを描くことができる環境を整えます。

**W**はWomen and the World。これまで政府は男女共同参画社会の実現を目指し、数々の対策を奨励してきました。京都大学も学生に占める女性の比率は2割を超え、事務職員・技術職員では6割近くになりましたが、教員はまだ1割近くに留まっています。この比率は徐々に上昇すると思いますが、まずは女性が働きやすく、勉学に打ち込める環境作りが必要です。出産・育児休暇が男女とも取りやすく、それが仕事や勉学を継続する妨げにならないような仕組みや、女性に優しい施設・システムづくりを考えていきます。男女共同参画を支える環境・支援体制整備に加え、休業から復帰後の子育て期に柔軟な働き方を選べる制度を構築するため、男女共同参画推進アクション・プランを作成し、その事業

推進に努めます。また、京都大学という「窓」を通じて、学生が希望をもって社会に羽ばたくことができるよう、学生が自身の能力に自信を持てるような成長の機会を創出します。

### 重点戦略

- 1 女性リーダー育成および家庭生活との両立支援を推進します。
- 2 男女がともに高い希望をもちうる環境づくりを推進します。
- 3 学生が希望をもって社会に羽ばたくための支援を行います。

# WINDOW構想の実現に向けた取組の主な実績

## WILD AND WISE

### 教養・共通教育改革の実施(2016年度)

学士課程では、教養・共通教育において、複数年にわたる学内での熟議を経て、2016年度以降の入学者を対象とした大規模な改革を実施した。この改革においては、ほぼすべての分野について開講科目の見直し・科目の廃止のほか、内容や科目名の変更、新規科目の追加等を大幅に行うとともに、①科目群の見直し、②英語科目の見直し、③アクティブラーニングや対話を重視した少人数教育と学際教育の充実、④時間割のブロック化、⑤履修登録早期化と入学予定者への早期対応、⑥課外学習への対応強化と学習環境の整備を骨子とした抜本的な見直しを行っている。

少人数で課題を探究する科目(ILASセミナー)については、従前のポケット・ゼミから衣替えした際、開講科目数を大幅に増やす(2015年度195科目、2016年度292科目)とともに、時間割の整理(ILASセミナーを5時限に配置する一方、他の必修性の高い科目を1-4時限に配置)を行った結果、履修者数も大幅に増加し(2015年度1,571名、2016年度1,996名)、その後も継続して安定的に開講している(2019年度:科目数292科目、履修者数2,104名)。また、2017年度から従前の国際交流科目を衣替えし、海外での実地研修を行う「ILASセミナー(海外)」を開講している。

### 大学院共通科目群を開講(2018年度)

修士・博士課程では、従来の研究科横断型教育プログラムを2018年度から改編し、専門学術以外にも素養として備えておくべき共通基盤科目として大学院共通科目群を開講するとともに、各研究科の専門科目のうち、他研究科学生の履修にも配慮した横断的な科目を大学院横断教育科目群として開講した。

### ダブル・ディグリーの実施、ジョイント・ディグリーの設置(2017、2018年度)

ダブル・ディグリーについては、インドネシア、タイ、マレーシア等の計8か国・地域における大学と22件を実施している(2020年4月現在)。

ジョイント・ディグリーについては、2017年10月に文学研究科とハイデルベルク大学(ドイツ)、2018年4月に医学研究科とマギル大学(カナダ)との間で開設した。さらに、経済学研究科とグラスゴー大学、バルセロナ大学との間で開設(2021年9月予定)に向けて準備を進めている。

### 卓越大学院プログラムの開設(2019年度)

「先端光・電子デバイス創成学」(2018年)、「メディカルイノベーション大学院プログラム」(2019年)が卓越大学院プログラムに採択された。

#### ●先端光・電子デバイス創成学

京都大学が国際的な優位性を有する光・電子理工学および先端デバイス分野を核として、我が国を代表する光・電子・電気関連の企業群、国際水準の研究力を有する国公立研究所、世界トップレベルの海外有力大学と強固に連携する修士・博士一貫の教育プログラムを推進する大学院構想。

2019年4月から19名の学生が履修を開始した。

#### ●メディカルイノベーション大学院プログラム

京都大学の医学・薬学・保健学分野の研究者が協力し、MD及びnon-MDの学生を対象に、グローバルな視点を持ったメディカルイノベーターを輩出することを目的



全学共通科目(2015年度前期)「生物学のフロンティア」における、山極総長による講義「霊長類の行動観察から人類の進化を紐解く」

とした教育研究プログラム。

2020年7月から31名の学生が履修を開始した。

### 国際アドミッション支援オフィスの設置 (2020年度)

「留学生リクルーティングオフィス」(仮称)の制度設計に関する検討を進め、優秀で意欲のある留学生を確保するためには全学的な誘致戦略の策定とそれに基づく誘致活動が必要であることを確認し、2019年4月に組織名称を「国際アドミッション支援オフィス」として国際戦略本部の下に設置した。

### Kyoto University International Undergraduate Program (Kyoto iUP) の開始(2017年度)

学部段階から優秀で志の高い留学生を積極的に受け入れ日本人学生と共に学ばせる教育プログラム「Kyoto University International Undergraduate Program (Kyoto iUP)」\*を実施した。

※企業や大学における先端的研究・開発が英語以外の言語で行われる世界でも稀な国であるという我が国の特性に対応し、日本語で学部卒業レベル(あるいは修士課程や博士後期課程修了レベル)の専門知識を獲得した留学生を育成、グローバル展開を図る日本企業及び日本経済そのものを牽引する、極めて高度な外国人材の輩出と日本社会への定着に貢献することを目指す本学独自のプログラム。

### オープンコースウェア(OCW)、MOOCs等、インターネットを活用した能動的学習の推進

オープンコースウェア(OCW)、MOOCs等のインターネットを活用したデジタル教材を開発し、学生に提供した。外国語教

育では、2016年度より語学学習支援システム(GORILLA)を導入した。

### 京都大学総長賞の授与

学業・課外活動・各種社会活動において、優れた評価、優秀な成績、他の学生の範となった学生個人または団体に対し、総長が表彰した(京都大学総長賞)。

- 2014年度 11件(全日本ボディビル優勝など)
- 2015年度 9件(ロレアル・ユネスコ女性科学者 日本奨励賞受賞など)
- 2016年度 7件(全日本オリエンテーリング大会優勝など)
- 2017年度 10件(ユニバーシアード競技大会男子20km競歩優勝など)
- 2018年度 8件(ウインドサーフィン全日本インカレ団体戦等優勝など)
- 2019年度 12件(NHK学生ロボコン2019～ABUアジア・太平洋ロボコン代表選考会～優勝など)

### 課外活動施設の整備

課外活動施設の整備(総合体育館のボクシングリング修繕、総合体育館の更衣室空調機設置、西部構内屋外プール整備、相撲部の土俵整備、カヌー部合宿所の防水改修工事等)を行った。

また、2019年10月、本学の創立125周年記念事業の一環として、株式会社丸和運輸機関からの寄附により宇治グラウンドに国際試合で使用される品質をもつ天然芝や人工芝などを備えたラグビーフィールドを整備することを決定した。

## INTERNATIONAL AND INNOVATIVE

### On-site Laboratoryの制度化・設置 (2018年度)

世界をリードする最先端研究を推進するとともに、優秀な研究者・学生の獲得や人材育成、海外の産業界との連携等を戦略的に促進するため、海外大学等との双方向型研究交流をチーム単位で行う「On-site Laboratory」(現地運営型研究室)の制度を創設した。これまで全11件を認定し、2020年9月時点で10件を運営している。

### 海外拠点の拡充

教育研究活動の支援、教職員・学生の国際化推進、広報・社会連携・ネットワーク形成というミッションに基づき、既存の欧州拠点(ドイツ・ハイデルベルク)及びASEAN拠点(タイ・バンコク)に加えて、北米拠点を米国・ワシントンD.C.に

設置し(2018年10月)、本学の教育研究活動におけるハブ機能を強化した。また、カリフォルニア大学サンディエゴ校付近に新たに設置した「京都大学サンディエゴリエゾンオフィス」(2017年)を、本学医学研究科がOn-site Laboratoryを設置するカリフォルニア大学サンディエゴ校内に移転し(2019年)、本学の米国西海岸における活動拠点と位置付けた。

2014年6月に設置したASEAN拠点では、ASEAN拠点の活動基盤をより一層強固なものとするため、2018年に本邦初となる「タイにおける外国法人の活動認可(NGO)」を取得した(認可:2018年3月、認可証明書授与:2018年5月)。

なお、部局においては、2020年5月現在、61の海外拠点を設置し、全学海外拠点と協力して、当該部局の教育研究、国際交流等を進めている。

## 京都大学国際化推進の基本コンセプト策定 —戦略的パートナーシップ協定の締結等—

本学の更なる国際化の推進に向けて、中長期的な視野を持って取り組むために、国際戦略本部を中心に取纏め、2018年10月に公表した。前文に続き、教育、研究、社会貢献に関するビジョンとそれらを実現するためのアプローチから構成されている。

## 高等研究院の設置 (2016年度)

分野を問わず、世界的に極めて優れた研究業績を有する研究者、次世代を担う若手研究者が高度な研究活動を実践し、本学の強みを活かした最先端の研究を持続的に展開するとともに、国内外の卓越した研究者が集う世界トップレベルの国際研究のハブとなる組織として、2016年4月に高等研究院を設置した。

2017年4月に研究拠点として設置したWPIアカデミー拠点iCeMSに続き、2018年10月にはWPI拠点ASHBiを設置したほか、寄附研究部門や学外機関との連携研究拠点も設置している。

## 最先端研究による フロンティア領域の開拓と牽引

京都大学の強みを活かした最先端かつ独創的な研究活動を推進し、世界の学術におけるフロンティア領域を開拓・牽引した。加えて、研究活動を多面的・先進的な取組で支援するURA組織の体制整備及び機能強化を実施し、研究力強化を推進した。2018年には本庶佑高等研究院副院長・特別教授が免疫抑制の阻害によるがん治療法の発見によりノーベル生

理学・医学賞を受賞するなど、国際的な受賞が相次いだ。

また、本学出身者等が教育研究や学術文化に寄与し、功績が特に顕著である者に京都大学名誉博士の称号を授与した。

## 研究支援の強化

大学全体、各部局及び個々の研究者が必要とする研究支援への機動的かつ柔軟な対応を行うこと並びに情報の共有化及び連携・協働による研究支援体制の強化のため、2016年度にリサーチ・アドミニストレーター (URA) の所属を学術研究支援室に一元化するとともに、同室の機能強化を行った。

また、本学の研究者に対する研究支援事業として、研究戦略タスクフォース、学術研究支援室、研究推進部が一体となった本学独自の研究支援事業を企画立案し、主に以下の取組を行った。

- 学際・国際・人際融合事業『知の越境』融合チーム研究プログラム (SPIRITS)
- 【いしずえ】研究支援制度
- 若手研究者モビリティ促進支援制度【間：AI DA】
- 若手研究者スタートアップ研究費
- コアステージバックアップ研究費
- 若手研究者の海外渡航を促進する環境整備と支援

## 次世代を担う研究者の育成・輩出

次世代を担う研究者の育成・輩出のため、

- 「白眉プロジェクト」

挑戦的な課題研究に取り組む若手研究者を、学術領域を問わず世界中から募り、その研究を5年間保証する京都大学次



欧州拠点5周年記念  
式典において挨拶を  
行う山極総長

#### 世代研究者育成支援事業

- 「若手重点戦略定員事業」  
若手教員ポストの拡充の取組の一つ
- 「ジョン万プログラム」  
京都大学若手人材海外派遣事業  
等を実施した。

#### 大学ブランドの発信

本学の運営方針や他大学には無い本学の強み、ユニークな取組を積極的に発信するため、京都大学が主体的に仕掛ける大学ブランド発信の取組に着手し、第一弾「総長特設サイト」、第二弾「探検！京都大学」(PC版)、第三弾「探検！京都大学モバイル版」及び第四弾「ザッツ・京大」といった魅力発信サイトを公開し、2018年度には、本学のユニークな教員の魅力を動画で伝える「京大先生シアター」、学生の自ら考え挑戦する姿を動画で紹介する「おもろチャレンジ」サイトを公開した。

研究広報に特化した国際広報室を設置し、本学の卓越した学術研究について、国内外のメディアに対して、プレスリリース、記者会見、研究室訪問およびインタビュー等の手法によって効果的に発信した。また、個々の研究成果について、研究者と科学イラストレーターとの緊密な連携による科学イラストレーションの制作を推進し、研究成果を視覚的に分かりやすく発信した。さらに、人文学から自然科学に至るまでの幅広い分野で、本学の優れた研究者を紹介する動画を制作・公開した。

#### 学術・情報資源の充実

2016年度に策定した「基盤的電子ジャーナルの選定方針」に基づき、約47,000タイトル(2019年度実績)の電子ジャーナルを整備し、学内研究者に対する電子ジャーナルの効率的・効果的な提供を行った。また、オープンアクセスに向け京都大学学術情報リポジトリ「KURENAI」への収録を進めることにより国内外における学術・情報資源を充実させ、学術界全体の研究支援機能を強化した。さらに、京都大学貴重資料デジタルアーカイブでは、国際的な規格IIIF(International Image Interoperability Framework)により、本学所蔵の学術資料の電子化とインターネット上での公開に取り組むなど、国内外の学術の発展に貢献している。

#### 人文・社会科学の未来形発信(2018年度)

本学における人文・社会科学分野の発信に関する指針として『人文知の未来形発信』に向けて、さらに、2018年10月1日に発信事業を実働的に担う人社未来形発信ユニットを設置した。同ユニットでは、グローバル化と多



京都大学ホームページ特設サイト「探検！京都大学」  
トップページとサイトイメージ

極化が進行する世界情勢を視野に入れ、西洋一局集中を脱し、人間・社会・環境・自然を総合的に理解する新たな俯瞰知として、人文知・社会知の再構築を行うことを目的としている。

#### 臨床研究中核病院に承認(2016年度)

医療法上の臨床研究中核病院の承認申請を行い、社会保障審議会医療分科会において承認され、臨床研究、医師主導治験を加速する体制を整備した。

#### 産官学連携「京大モデル」の推進(2018年度)

2018年6月に京大オリジナル株式会社を設立した。これは、指定国立大学法人にのみ出資が認められているコンサルティング事業、研修・講習事業等を実施する事業子会社である。すでに本学の出資を受け運営している「京都大学イノベーションキャピタル株式会社」および「株式会社TLO京都(旧・関西ティー・エル・オー株式会社)」と有機的に連携させ、研究成果・知的財産の活用促進に向けた産官学連携の新しい「京大モデル」構築を進めた。

また、「組織」対「組織」による共同研究スキームのより一層の推進を目指し、大型産学連携プロジェクトの企画・提案と当該プロジェクトの集中マネジメントを行うための「オープンイノベーション機構」を2019年7月1日に設置した。

#### 次世代医療・iPS細胞治療研究センター(Ki-CONNECT)の設置(2020年度)

早期臨床開発に特化した専用病棟である次世代医療・iPS細胞治療研究センター(Ki-CONNECT)を2020年度に開設した。



「京都大学ヘルシーキャンパス」キックオフフォーラムにおける「学生が考える健康づくり対談」の様子

### ヘルシーキャンパスの実施

教職員・学生等の健康を増進するために、ヘルシーキャンパス運動<sup>\*</sup>を推進した。

※大学から人々と社会の健康を創造することを目的にした取組。この取組を通じて、学生・教職員をはじめとした大学に関わる人々の健康が改善するだけでなく、大学を基点として「健康を大事にする文化」を社会に広げ、根付かせることを目指している。

### 国内外でのフィールド学習の充実

各学部・研究科等の教育目的に応じた少人数授業、演習、実験・実習科目、国際化対応科目、国内外でのフィールド学習により、能動的学習を活用した自学自習を促進した。

また、北海道から鹿児島県に至る国内及び海外にも多数の隔地附属研究施設等を有しており、それぞれ独自の研究やフィールド科学の拠点として教育・研究に推進した。

### 医学部附属病院Ⅱ期病棟、桂図書館等のキャンパス環境の整備(2019年度)

教育・研究・医療・学生支援環境の質の向上に反映させるため、環境負荷低減の継続・促進やパブリックスペースの確保などを踏まえ、総合高度先端医療病棟(Ⅱ期)・iPS等臨床試験センター棟、桂図書館等の施設整備を推進するとともに、大学を取り巻く状況の変化に応じてキャンパスマスタープランの見直しを行った。

### 環境賦課金制度を活用した環境負荷低減の継続・促進

環境賦課金制度<sup>\*1</sup>を活用した環境負荷低減に資する整備として、各年度環境賦課金計画に基づき、着実にESCO事業<sup>\*2</sup>

及び省エネ改修工事を実施するため、高効率空調設備等への改修やLED照明の導入、ESCO事業の新規契約・継続を進めた。

※1 環境賦課金制度とは、各部局のエネルギー消費量に応じた課金を実施するとともにほぼ同額を全学経費から支出し、これを原資として省エネルギー対策事業等を実施する本学独自の制度である。これまでの継続的な取組みと成果が評価され、2018年度省エネ大賞(一般財団法人省エネルギーセンター主催、経済産業省後援)において、省エネ事例部門の省エネルギーセンター会長賞を受賞した。

※2 ESCO事業とは、省エネルギーに関する包括的なサービス(設計、施工、維持管理等)をESCO事業者が提供し、定められた期間にそれによって得られる省エネルギー効果を事業者が保証する事業である。

### コンプライアンス体制の整備

全学的なコンプライアンスの推進、充実及び強化並びにコンプライアンス事案の防止及びコンプライアンス事案が発生した場合の対応について、総括的な審議を行う組織として、理事、副学長等により構成する「コンプライアンス推進本部」を設置した(2015年7月)。

高度化・多様化・複雑化する大学運営に対応するため、2012年度以降、総務部に複数名配置した弁護士資格を有する職員による「法務相談」を実施し、より身近なところから日々の大学運営における法的な課題・リスクに指導・助言を行い、法的な側面から教職員の多様な教育・研究活動をサポートする体制を整備した。

近年では、案件が紛争化する前に行われる「予防的法務相談」の活用を積極的に推進しており、具体的な相談事例を紹介する「予防法務のススメー法務相談事例集ー」を作成・周知するなど、業務が適正に実施されることはもとより、一層円滑に実施できるよう取り組んだ。

## DIVERSE AND DYNAMIC

### 「京都アカデミアフォーラム」設立(2017年度)

本学が中心となり、京都外国語大学、京都光華女子大学、京都工芸繊維大学、京都市立芸術大学、京都女子大学、京都精華大学、京都美術工芸大学、同志社女子大学と連携し、京都の文化・芸術・科学について「学術面から情報発信する場」として広く一般に認知されることを目指し、京都の魅力や価値を高めることを目的として、「京都アカデミアフォーラム」in 丸の内を開設した(2017年7月)。

### 外国人研究者及び留学生用宿舎の拡充

以下のとおり、外国人研究者及び留学生が入居可能な宿舎整備計画を推進した。

- 京都市住宅供給公社と交渉し、桂キャンパス近郊の檜原団地の居室を公社が全面改装し、本学外国人研究者及び留学生に供用することにした(計8戸)。又、民間業者2社から、さくらメゾン東山三条6戸、シェアフラットnenrin 1戸を確保した。
- 民間資金を活用した宿舎整備事業として、岡崎(50戸)と百万遍(86戸)計136戸の宿舎整備を進め、2019年10月から供用を開始した。

### オンラインカウンセリングサービスの提供開始(2018年度)

学生総合支援センターにおいて、株式会社cotree運営による学生のためのオンラインカウンセリングサービスについて、2017年9月～2018年3月にパイロット事業を実施し、2018年度より導入した。学生が相談内容・時間帯からカウンセラーを選び、ビデオ通話(音声のみも可)による相談方法と、カウンセラーとメッセージをやりとりするチャットによる相談方法の二種類の方法によりカウンセリングを実施した。

### 新型コロナウイルス感染拡大防止に伴う教育・学生支援(2020年度)

2020年度前期の授業については、新型コロナウイルス感染拡大防止のために、対面授業は原則停止し、オンライン授業を実施した。オンライン授業の実施にあたっては、高等教育研究開発推進センターと情報環境機構ではZoomやPandAの学内講習会やFAQ、学内での取り組み状況の紹介等を行った。

また、意欲と能力のある学生が経済的理由で修学・進学を断念することのないように「緊急学生支援プラン」を策定した。同プランに基づき、給付型奨学金の創設、授業料免除の拡大、大学院生のティーチングアシスタント・学部学生のオフィスアシスタントへの雇用の拡大、オンライン授業に伴うモバイルルータ(Wi-Fiルータ)の無償貸与等を実施した。

学生総合支援センターでは、通常の心理・修学支援、就職支援、障害学生支援のための相談について、対面を原則停止し、電話やビデオ会議システム等を使った方法に急遽切り替え、学生からの相談に継続的に対応した。

### IRを活用した大学運営の実施

執行部が国内外の学術研究動向を的確に把握し、時宜に応じた適切な判断を行うことを補佐するため、学内資源および国際動向の把握とそれらの分析等を行うIR部門を強化した。企画・情報部企画課IR推進室においては、学術研究支援室やプロボストオフィスと協働して執行部や戦略調整会議への情報提供を行っている。また、教育推進・学生支援部教育IR推進室や高大接続・入試センターにおいては教育情報や入試データの分析を行っている。

また、学内の大学運営にかかる各種業務システムのデータをDWH(データウェアハウス)に集約し、これらのデータを活用して効率よく高度な分析を行うためのBI(ビジネス・インテリジェンス)ツールを整備し、運用している。

### 独自奨学金の創設

本学独自の奨学金制度を創設し、対象学生数や支援額を拡充した。

### 「京大版プロボスト」制による機動的な大学運営(2017年度)

多様な部局の自律性を尊重しつつ強力な本部がバランスの徹底と迅速な施策の執行を可能とするため、2017年10月1日付けで現職理事のうち1名をプロボスト(本学の将来構想や組織改革など包括的・組織横断的課題について、総長や理事と部局や学系との連携・調整のもとに戦略の立案をする者)に任命するとともに、同年11月に戦略調整会議を設置した。



「京都アカデミアフォーラム」in 丸の内の開所式にて、開会のあいさつを行う山極総長

## ORIGINAL AND OPTIMISTIC

### 特色入試の創設・実施 (2016年度)

高校教育から大学教育への接続を図り、社会の各界で積極的に活動できる人材や世界を牽引するグローバルリーダーを育成するため、高校での学修における行動や成果、および個々の学部の教育を受けるにふさわしい能力ならびに志を総合的に評価する、本学独自の選抜方式(特色入試)を2016年度より実施している。また、志願者数・入学者数は、共に増加傾向が続いている。

### ELCAS等の高大連携事業の 推進

高大接続事業であるグローバルサイエンスキャンパス(GSC)事業「科学体系と創造性がクロスする知的卓越人材育成プログラム」(京都大学ELCAS<sup>※</sup>)の実施を通じて中等教育との接続をより密接にし、生徒が「対話を根幹とした自学自習」に基づく主体的な学びへと転換するきっかけを創出するとともに、高度な学術にふれる機会を拡大することにより、将来を担う世代の育成を積極的に行っている。

※京都大学ELCAS：本学の教育理念である「対話を根幹とした自学自習」に基づいて主体的に学びを究めようとする高校生が高度な学術にふれる機会を拡大し、研究型大学ならではの次世代の育成を目的とした事業

### 学域・学系制度の導入(2016年度)

2016年4月から、教員人事の一層の透明性と公平性を図りつつ、既成部局の枠を越えた新学術分野の創出とそれに伴う機動的で効果的な組織改編を促すことを目的として、教員の人事機能を教育研究組織から分離して教員組織に移行する「学域・学系制」の運用を開始した。

### 「京大100人論文」の企画・運営(2016年度)

学際融合教育研究推進センターにおいて、100人の研究者が研究概要をポスター形式で提示し、そこに付箋で自由にコメントを書き込むことで研究者間の意見交換を促進するという企画「京大100人論文」を実施した。

2019年度には、5日間で来場者数534人(来場大学26校、来場企業47社、新聞TV等メディア8社)となった。



「京都大学特色入試」ポスター(左：平成28年度、右：平成29年度)

### 同窓会活動の活性化、寄附募集活動の推進

国内外の地域同窓会の設立支援、開催支援を進めるとともに、本学の役員等が各同窓会に積極的に情報提供を行うことにより、同窓会活動を活性化させた。

また、京都大学基金の寄附募集活動として、本学出身の起業家や企業役員への訪問活動、各同窓会に対する京都大学基金のPR及び寄附依頼、保護者に対する働きかけ等、ターゲット層に応じた施策を継続的に実施し、新規寄附者の獲得に努めた。

### 鼎会プログラム「おもろチャレンジ」の実施 (2016年度)

財界トップの本学卒業生で構成される総長支援団体「鼎会(かなえかい)」からの支援を受け、学生の自己提案形式による海外研修を支援する京都大学体験型海外渡航支援制度一鼎会プログラム「おもろチャレンジ」を企画・実施した。

### 京大生チャレンジコンテスト(SPEC)の実施 (2015年度)

2015年度から、本学のプレゼンスを世界に示すに相応しい教育研究活動、課外活動又は社会貢献活動に関する学生の取り組みに対して、クラウドファンディングによって、卒業生や企業など社会から広く寄附を募って支援を行う新たな学生支援制度 SPEC: Student Projects for Enhancing Creativity(京大生チャレンジコンテスト)を開始した。

## WOMEN AND THE WORLD

### 女性教員登用等支援事業の実施(2019年度)

本学における女性教員の比率向上のための支援策として、女性教員を採用・昇任等した場合に条件に応じてインセンティブ経費を支給する女性教員登用等支援事業を2019年4月より実施した。

### 産学協働イノベーション人材育成協議会と連携した研究インターンシップの実施

大学院学生、特に博士後期課程の学生に対して、実践的な産学連携活動の機会を提供する産学協働イノベーション人材育成協議会(京都大学理事が代表理事を務めている)と連携し、研究インターンシップへの参画を促進した。

### 教職員が安心して勤務できるよう託児サービスを充実

研究と育児の両立支援のための研究環境整備として、引き続き年度当初から待機乳児保育室を開室している。また、子供の急な発病へも対応できるよう、病児保育室の開所時間の前倒しを2016年4月から実施した。

ワークライフバランスを考慮して、医療従事者が安心して医療に従事できるよう、院内保育所において2016年度から新たな託児サービス(お迎え託児、26時間託児)を実施した。

さらに、2018年7月より、院内レストランによる院内保育所及び病児保育室への食事の提供を開始した。

### 男女共同参画支援「たちばな基金」の設置(2019年度)

男女共同参画事業をさらに充実させていくため、男女共同参画支援「たちばな基金」を立ち上げた(2019年4月)。

### 優秀な女子学生の確保に係る取組(高校生対象)

本学の女子学生比率の向上のため、女子学生を母校の高校へ派遣する「女子高生応援大使」事業を実施した(2019年度派遣数:17校、28名)。また、女子高生を対象とした車座フォーラムを実施した(2019年度参加者:高校生111名、保護者49名)。

### 女子寮の改修(2019年度)

老朽化が著しかった女子寮の建替を行った。

### GST(Graduate Student Training)推進室の設置(2019年度)

大学院生の教育研究能力向上のための研修を行うGST(Graduate Student Training)センター(仮称)の設置に向け、2018年度に学内TAアンケート調査を実施した。その調査結果を踏まえ、全てのTAを対象とした基礎的研修、研究科のニーズに基づき設計し希望者を対象として実施する高度な研修及びGSTセンター(仮称)の体制に関する基本設計に係る検討を完了した(2019年11月15日)。

その結果、GSTセンター(仮称)の設置に向けて、まずは教育担当副学長の下に「GST推進室」を置き、各種研修の実施に着手することとした(2020年2月)。



女子寮竣工式

